

弓道競技にも関係する 2022 アンチ・ドーピングの情報提供

2022 年北京冬季オリンピックで、ドーピング問題が連日報道され、世界中の注目を集めました。一般的には体内から禁止物質が検出されれば、アスリートやサポートスタッフ（指導者、コーチ、チームドクターなど）は制裁の対象となります。

弓道は、ドーピングは関係ないと思う方が大半だと思いますが、今や武道競技を含むスポーツ全体がドーピングのないクリーンでフェアなスポーツであることを証明するため、ドーピング防止に取り組む必要があります。

今年も 1 月 1 日に世界アンチ・ドーピング機構（WADA）2022 禁止表国際基準が更新されました。昨年からの大きな変更はありませんが、細かな変更がいくつかありますので、個々の薬については**飲む前、使う前**に専門家に確認してください。

なお、昨年、世界アンチ・ドーピング規程（CODE）が 6 年ぶりに改訂され、**違反項目が増え、アスリートの役割と責務**が増えています。

日本人がドーピング違反になりやすいのは、①市販の風邪薬や鼻炎薬、②葛根湯や麻黄湯などです。また 2021 年 4 月から、③口内炎治療薬などが**※競技会時使えなくなりました**ので特に注意してください。

①メチルエフェドリンやブソイドエフェドリン ②生薬の麻黄を含む ③アフタゾロン、アフタッチ、ケナログなど、いずれも禁止薬物指定もしくは禁止薬物が含まれるものが数多くある。

※競技会時とは、「競技者が参加する予定の競技会の前日の真夜中（午後 11 時 59 分）に開始され、当該競技会及び競技会に関する検体採取手続きの終了までの期間」。

今年の「いちご一会とちぎ国体」では、弓道は TUE 事前申請競技に指定されていません。あなた自身がドーピング検査対象となり、検査が実施される可能性が十分あります。**国体選手**で禁止物質を含む薬（インスリン、副腎皮質ホルモン剤など）で治療する必要のある方は、国体の 30 日前までに **TUE（治療使用特例）申請**が必要です。

（申請書類等は以下のサイトを参考にしてください。）

<日本アンチ・ドーピング機構 JADA サイト> <https://www.playtruejapan.org/>

○ルール <https://www.playtruejapan.org/code/violation/>

○相談先 <https://www.playtruejapan.org/activity/pharmacist.html>

○世界アンチ・ドーピング規程 <https://www.realchampion.jp/code2021.html>

○OTUE（治療使用特例）書式 <https://www.realchampion.jp/resources/000162.html>



リンク先をまとめたページが表示されます

<日本スポーツ協会 アンチ・ドーピング⇒使用可能薬リスト 2022>

<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/doping/tabid537.html>

